

宿屋の亭主 毎日おおぜいのお客ですからね。

ブウツ (すりかえられた「その二」のテーブルかけをだして宿屋のかみさんにみせる) おばさん、これ知っているでしょう？

宿屋のかみさん ああ、それは……

宿屋の亭主 (いそいでそばから) 知らない。——そんなテーブルかけ、うちじゃア知らない。(宿屋のかみさんに) 気をつけて口をきくもんだ。(こわい眼をしてしかる)

宿屋のかみさん ……(おどろいてだまる)

ブウツ ぼくはおじさんに聞いてやアしない。

宿屋の亭主 聞いても聞かなくても、うちんじゃアない。——そんなテーブルかけ、どこにだつてあるテーブルかけだ。……

ブウツ ……

宿屋の亭主 が、もしそれを知っているといたら、おまえどうするんだ？——うちのなら、おまえ、どうするんだ？

ブウツ ぼくのと違っているからとりかえてくれたまえ。

宿屋の亭主 なに？

ブウツ ぼくの魔法のテーブルかけを返してくれたまえ。

宿屋の亭主 魔法のテーブルかけ？(大きな声できゆうにわらって) なにをいってるんだ、この才蔵は。——ねぼけるのもいい加減にしろ。——こんなものにかまっているひまに、そうだ、早く

おれは榆の木を植えてしまおう……

宿屋の亭主、ごまかして魔法の棒をとりあげ、いそいでそのまま庭の方へ行こうとする。

ブウツ (大きな声で) 横になれ！

ブウツがそういうと同時に雷かみなりのおちるような音がきこえる。——宿屋の亭主、わっといって倒れる。——そのまま魔法の棒におさえつけられて動くことができな。——宿屋のかみさん、おどろいてそばへかけよる。

宿屋のかみさん ど、どうしたんです。——どうしたんです。……？

宿屋の亭主 た、た、たすけてくれ。——たすけてくれ。……

宿屋のかみさん ど、ど、どうしたんです。——ど、どうしたんです？

宿屋の亭主 死、死ぬ。——死ぬ。——く、くるしい……